

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	05780812610
法人名	有限会社グループホームさんぼみち
事業所名	グループホームさんぼみち中仙
所在地	秋田県大仙市長野字太田袋1番地1 (電話) 0187-56-2286
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成20年10月9日

【情報提供票より】 (20年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 17年6月15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 2人, 非常勤 7人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (9 月 25 日現在)

利用者人数	8 名	男性 5 名	女性 3 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 77.6歳	最低 73歳	最高 81歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	滑川医院 なかさか歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者は家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活しており、地域行事にも参加し、表情は生き生きとしている。事業所は、2階建の2階部分にあり、大きくとられた居間の窓からは、四季折々に変化する山々や田園の風景が目に入る。「その人らしく可能な限り自立した生活を送っていただく」という理念の下、運営者・職員は一丸となってサービスに取り組んでおり、今後に期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	季節感のある空間作りに関しては季節に合った催し物を開催し、食事にも季節の旬のものを取り入れる等、改善が確認できるが、アセスメント・モニタリングに関しては、まだ十分とは言えない状況である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員で取り組んでおり、各自の役割をしっかりと見直すことができている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	メンバーの構成は利用者・家族・地区・行政・事業所となっており、毎日の生活の中で利用者のできることを引き出す為の取組み方法等を討議している。職員は、会議で出された意見をさらに検討し、心身の機能低下を防ぐサービスに活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回、個別に日常生活の様子を報告し、不安が生じないようにしている。また、訪問時は状態や状況の報告を行い、家族に意見を伺っている。問題点は運営推進会議へも議題として提出する等して、解決に向け取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の中学生に福祉を学ぶ場として事業所を開放し、踊りの会のボランティアを招く等、地域との繋がりを心がけている。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がそれぞれの残存機能を活かし、地域の方と触れ合うことで生き生きとした生活が継続できるよう、体力の維持・向上に力を入れた理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者の掲げている理念を管理者と職員は理解・共有し、共に日々のケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所内の行事に地域の方を招待して活動する機会を多く設けている。また、利用者と職員と一緒に地域のお祭りや敬老会に参加することで交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は事業所の今後の課題を明確にするため、前向きに外部評価を受け入れている。管理者及び全職員が自己評価を実施することで、現在のケアのあり方を見直し、サービスの改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーから出された意見を事業所内で更に話し合い、サービスの質の向上に活かしている。また、非常時に、消防・警察とも連携を図りやすくなるよう事業所の説明等の為、訪問している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とはサービスを実施していく中で生じた不安な事柄について相談し、解決に向けて共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月分の金銭出納と事業所内での出来事や健康状態の便り等を個別に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時は、意見や苦情を話しやすいような声掛けを心がけ、実践している。意見に対しては運営者・職員で話し合い、事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者自身が事業所内の一角で生活し職員と共にサービスを実施することにより、ここ1年の離職者はなく、併設施設への異動時も挨拶や連絡を行い、利用者のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は自身も含め全職員の研修計画を立てている。また、ケアを実施していく上で出された課題はミーティングで意見を出し合い、職員の学びの場としている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとは、研修に参加した際、交流を持つようにしている。ネットワーク作りをどのように進めて行ったら良いのか模索中である。	○	地域内のグループホームと更に交流を深め、サービスの質が向上していくことを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用者とは入居前から面接を数回行い、安心感を持ってもらえるよう配慮し、職員や他の利用者に自然に溶け込んでいけるよう雰囲気作りを工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や調理を一緒に行ったり会話を楽しみながら心を通わせ、共に生活していることが実感できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方が十分に把握できなかった場合は、生活の中での何気ない会話から、本人の希望や意向を把握しようと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアのあり方については家族、職員間での話し合いは十分に行い、本人の好きなこと、得意なことを大切に考えた介護計画書が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの期間を決め、本人・家族と話し合っている。また、利用者の状態変化に対応した適切な計画作成が出来るよう努めている。	○	今後も、利用者の状態変化に速やかに対応出来るよう、確実な情報交換が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合、病院の看護師等との医療連携体制を活かして、病状やその後の状態について話し合い、本人・家族の希望を踏まえた上で早期退院に向けて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が納得しているかかりつけ医の往診を受け、健康状態について相談をしている。また、かかりつけ歯科医による入れ歯の調整も随時行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や病名によっては、終末期のあり方について、早い段階で家族やかかりつけ医と話し合い、決定した方針を職員全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアサービス時の言葉かけは、プライバシーを損ねることのないよう、一人ひとりのプライドに配慮した対応となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に利用者の希望を聞き、その希望に沿った支援を優先して行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間分の献立表は、利用者の希望を聞きながら作成しており、調理・準備・片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴前の健康状態に合わせて入浴を楽しめるよう支援しているが、入浴の回数・時間については、1人ひとりの希望に添った支援が十分に行なわれていない。	○	週2回の入浴日以外にも汗をかいたり体が汚れた場合はシャワーで対応しているが、これまでの利用者の習慣も考慮し、回数・時間の希望を聞き、それに沿った支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量に合った役割を見つけ実践していくことで張りのある生活を送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの体調を把握し、天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物等の外出希望も積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は居室・エレベーターに鍵はかけておらず、利用者が一人で外出した時はそれとなく付き添い、自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器使用訓練・避難訓練は消防団の協力を得て実施している。食料・飲料水の備蓄は関連施設と共同で行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立となっており、一人ひとりの食事・水分の摂取量、一人ひとりの好みのもの・苦手なものを把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は掃除が行き届き清潔であり、換気も定期的に行われ不快な臭いはない。また、玄関に季節の花を飾り季節感を取り入れ、更に居間の大きな窓から見える景色が何より移りゆく季節を感じさせてくれる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、以前より使っていた愛着のある物を居室に持ち込み、使用することで居心地良く過ごすことができるよう工夫している。		

※ は、重点項目。